2006 年度第1回常任理事会議事録

日 時: 2006年4月28日(金) 午後6時~午後8時

場 所:東京富士大学 本館1階第2会議室

出席者: 岡村一成理事長

浮谷秀一, 荻野七重, 垣本由紀子, 田之内厚三, 所 正文, 外島 裕, 内藤哲雄, 藤田主一, 松田浩平, 向井希宏, 南 隆男, 柏木惠子 (第73回大会委員長)

委任状:松浦常夫,蓮花一己

事務局: 浮谷秀一(局長), 伊波和恵(幹事)

I. 理事長から

・理事長により、荻野七重常任理事が副理事長に 指名され、承認された。

II. 報告事項

- 1. 2006 年度第73回大会について(柏木大会委員長,松田大会副委員長,村井大会事務局長)
 - 2005 年 9 月 9·10 日開催予定の大会の内容 について説明があった。

テーマ「少子高齢化と心理学」。

- ・現在発表者ならびに参加者のエントリーを受け付け中である。
- ・公開特別講演の広報方法について意見交換が なされ、新聞、会場周辺地域の広報誌に掲載 依頼する等の手段もとることになった。
- ・大会に関して、エントリー期日と費用の一覧 を、大会用ホームページならびにニューズレ ター No. 15 に記事を掲載することになった。
- ・理事会は東京ガーデンパレス(御茶ノ水)に て、大会前日の8日に行う。

2. その他

・7月に行われるアテネでの国際会議に向けて、旅費参加費等補助金の増額について意見交換がなされた。アテネ大会への参加者は8名(うち非会員は1名)。シンガポールでは会員に5万円、非会員に8万円の補助があったが、アテネでは若干の増額が必要であるとの指摘が国際交流委員会より提起された。この予算の組み方について明確化する方向で検

討することが確認された。

III. 審議事項

- 1. 委員会合併に関する件
 - ・理事長から、シンポジウム委員会と研修委員 会を合併して企画委員会にすることが提案され、承認された。
- 2. 各委員会の委員長選出に関する件

(岡村理事長)

・各委員会の委員長が次のように承認された。 機関誌編集委員会:藤田主一 企画委員会:内藤哲雄 広報委員会:所 正文 認定「応用心理士」認定審査委員会:浮谷秀一 国際交流委員会:蓮花一己 若手研究者支援委員会:田之内厚三 学会賞・奨励賞選考委員会:荻野七重

- ・本理事会の終了後,各委員長が集まり,委員 選出の調整が行われた。
- 3. 新入会員審査および会員異動に関する件

倫理委員会: 荻野七重

- ・新入会員申し込みのあった者について審査した結果,下記の24名を承認した。中嶋一恵,野内類,櫻井美由紀,藤掛和広,酒井美子,竹田せき子,磯友輝子,小谷賢太郎,山内直人,小倉有紗,森慶輔,安達悠子,藤村融,徳永美佐子,事崎由佳,花尾由香里,野口理英子,高柳伸哉,菅野智子,三島斉紀,小山秀紀,加藤純子,満石寿,山村豊
- 4/25 現在, 会員数 1,054 名 (内訳: 正会員数 1,006 名, 学生会員 1 名, 名誉会員 43 名, 賛 助会員 4 名)。入会者 6 名, 退会者 0 名。
- *次回常任理事会は 2006 年 6 月 23 日 (金) 午後 6 時より東京富士大学において開催される予定であ る。

2006 年度第 2 回常任理事会議事録

日 時: 2006年6月23日(金) 午後6時~午後8時

場 所:東京富士大学 本館1階第2会議室 出席者: 岡村一成理事長, 荻野七重副理事長

浮谷秀一, 大橋信夫, 田之内厚三, 所 正 文, 外島 裕, 内藤哲雄, 藤田主一, 松浦 常夫, 松田浩平, 向井希宏, 蓮花一己, 柏木惠子(第73回大会委員長)

事務局: 浮谷秀一(局長), 伊波和恵(幹事)

I. 理事長より

II. 報告事項

- 1. 各委員会報告
 - 1) 機関誌編集委員会(藤田委員長)
 - ・「応用心理学研究」の編集状況について説明があった。次号には公開シンポジウムの報告も掲載予定である。
 - ・編集委員会の所在について、(株)国際文献 印刷所内から日本体育大学藤田宛へ変更の 旨、確認された。これにより、論文の投稿 先も変更となった。
 - ・次号に田中昌人先生の追悼文を,田中真介 先生に,藤田委員長より執筆依頼すること となった。
 - 2) 企画委員会(内藤委員長)
 - 大会へ向けてシンポジウムを準備中である。
 - ・関東地区以外でのシンポジウム開催について,経費も含め慎重に検討している。
 - 3) 広報委員会(藤田前委員長·所委員長)
 - ・ニューズレター第 15 号を発送した。
 - ・紙媒体のニューズレターを所委員長が引き 継ぎ、HP は松田委員が担当することにし た。
 - 4) 認定「応用心理士」認定審査委員会

(浮谷委員長)

- ・2006年度前期分2名エントリー,7月に 審査を実施する。
- ・冊子を作成し、全会員に配布、アピールすることを企画している。
- 5) 国際交流委員会(蓮花委員長)
 - ・アテネでの国際応用心理学会が7月に開催される。
 - ・国際学会での学会企画については, 6月24 日に準備委員会を開催予定。
 - ・国際応心でのシンポジウム開催補助とし

- て、100万円を支出することが承認された。
- ・学会企画シンポジウム終了後に、機関誌に て報告することになった。
- 6) 若手研究者支援委員会(田之内委員長)
 - ・支援策を第73回大会にて初めて適用する ことを、HP、NL、大会案内などで広報し た。
 - ・本大会での動向をみてから、来年度以降の 広報の方法について見直す予定である。
- 7) 学会賞・奨励賞選考委員会(荻野委員長)
 - ・6月15日時点で推薦の受付を終了したが、 推薦候補はなかった。詳細は審議事項に譲る。
- 8) 倫理委員会(荻野委員長)
 - 案件のあるときのみ報告することとなった。
- 2. 日本心理学諸学会連合

(岡村理事長・垣本担当常任理事)

- ・6月11日に会合があり、垣本・岡村理事が 出席した。42学会49名の参加があった。
- ・一時凍結していた心理学検定事業が動き始める。
- 心理学検定事業案が可決された。
- ①心理学検定事業「運営資金の調達と返済に 関する細則」案
- ②心理学検定事業関連の規定案,事業計画 案,予算案
- 3. 2006 年度第73 回大会について

(松田大会副委員長)

・2006 年 9 月 9 日・10 日開催予定の大会の 内容について説明された。

テーマ「少子高齢化と心理学」

- ・現在発表者ならびに参加者のエントリーは6 月25日締切、原稿締切は6月30日。
- ・エントリー件数は次のとおりである: 一般発表(ポスター)90件,自主シンポジウム4件,ワークショップ4件,参加のみ52件,論文集のみ購入2件。
- ・理事会は東京ガーデンパレスホテル(御茶/水)にて、大会前日の8日に行う。
- ・web 上でプログラムを発表予定。また、受付 手続きの簡略化のため予約者には名札を発送

予定。

4. 2007 年度第74回大会について

(蓮花大会委員長)

- 2007年9月8~9日開催予定の大会の内容 について説明された。
- ・帝塚山大学学園前キャンパス(スタッフ 11 人)開催で、現在調整中である。
- ・森下先生を大会顧問にする予定である。
- 5. その他
 - ・役員・事務局体制について、確認と修正がなされた:①認定「応用心理士」事務局に e-mail アドレスを入れることとなった。②国際交流委員会について、長塚委員長はアテネ大会まで担当することが確認された。

III. 審議事項

1. 学会賞・奨励賞選考に関する件

(荻野委員長)

- ・今年度の選考過程について説明があった。今年度は推薦者がなかったため、該当者なしという結論に至った。
- ・選考委員の人数が 4 名であったが、規程通り に5 名とする。そのため、理事の小野浩一氏 もメンバーに加えることが荻野委員長より提 案され、承認された。
- ・今後、論文賞のような形式にしたり、名誉会員を推薦者から外したりしてはどうかとの提案がなされた。これについては、委員会で検討して次回提案することとした。
- 2. 終身会員に関する件(岡村理事長)
 - ・「終身会員」新設に伴い,第4条における会 則改正案が提案され,承認された。主な変更 点は,次の2点である。
 - ①第4条 本会の会員は、正会員、名誉会員、終身会員、賛助会員、および学生会員とする。
 - ②4 終身会員は、次のいずれか1つに該当 し、本人の申し出により常任理事会の承認 を得た者とする。
 - (1)満 71 歳以上, かつ正会員在籍 30 年以 上の正会員
 - (2) 満 71 歳以上, かつ認定「応用心理士」 取得後 10 年以上経過した者

なお、終身会員は会費を納める義務を有 しない。

- 2004 年度決算・2005 年度予算に関する件 (浮谷事務局長)
 - ・決算書ならびに予算案が提示され、不明点の 確認ならびに若干の修正が加えられた。次回 までに会計監査を受けて報告する。
- 4. 新入会員審査および会員異動に関する件
 - ・新入会員申し込みのあった者を審査した結果,以下の25名を承認した。 番場あやの,石井紀子,茂原直樹,堀順子, 渕真輝,平山裕記,白井清太郎,山本圭太, 政本香,桜井裕子,澤田正康,横山泉, 杉浦愛子,西村和久,高澤昌代,梅山佐和, 鳥山絵美,雲井千香子,植田智也,近岡恵子, 高橋明子,関口恵子,蒲生澄美子,笠原博樹, 小林剛史
 - •6/14 現在, 会員数 1,085 名 (内訳:正会員数 1,037 名, 学生会員 2 名, 名誉会員 42 名, 賛 助会員 4 名)。入会者 35 名, 退会者 4 名。
- *次回常任理事会は 2006 年 8 月 4 日 (金) 午後 5 時より東京富士大学において開催される予定である。

2006 年度第3回常任理事会議事録

日 時: 2006年8月4日(金)

午後2時30分~午後4時30分

場 所: 東京富士大学 本館1階第2会議室

出席者: 岡村一成理事長, 荻野七重副理事長 浮谷秀一, 垣本由紀子, 所 正文, 藤田主

柏木惠子(第73回大会委員長)

委任状: 田之内厚三, 外島 裕, 南 隆男事務局: 浮谷秀一(局長), 伊波和恵(幹事)

一,向井希宏,蓮花一己,

I. 理事長より

II. 報告事項

- 1. 各委員会報告
 - 1) 機関誌編集委員会(藤田委員長)
 - ・「応用心理学研究」の編集状況について説 明があった。
 - 田中昌人先生の追悼文を田中真介先生に依

頼することになった。

- 2) 企画委員会
 - ・特になし
- 3) 広報委員会(所委員長)
 - ・ニューズレター第16号の準備中である。 学会大会報告,新委員長紹介,研究室紹介 などの記事を掲載予定。発行時期は大会 後,11月頃の見込み。
- 4) 認定「応用心理士」認定審査委員会

(浮谷委員長)

- ・2006 年度前期の審査が7月に終了した。2 名の申請があり、2名を合格とした。
- ・選挙があり新役員になったので、パンフレットを作り直し全会員に配布して広くア ピールする。
- 5) 国際交流委員会(蓮花委員長)
 - ・アテネでの国際応用心理学会大会が無事終了した。日本人参加者は2,000名以上であった(アメリカ人、ギリシャ人に次いで第3位)。
 - ・日本応用心理学会企画シンポジウムには約30名が参加した。
 - ・次回へ向けての提言として、次のような案が挙げられた: ①企画を早めに準備すること、②企画を公募にしたり、シンポジウムへ向けての研究を立ち上げたりするなど、立案方法を見直すこと、③開催地の研究者を交えるなど、国際企画にすること。
 - ・アテネ大会については、機関誌編集委員会と連携のうえ、次の方法で報告することが確認された:①機関誌に学会企画シンポジウムの特集を掲載(取りまとめ担当は内藤理事)、②大会発表の特集を掲載(シンガポール大会と同様に)。
 - 次回の国際応用心理学会は、2010年7月 11日~16日である。
- 6) 若手研究者支援委員会

(代理: 浮谷事務局長)

・大会時、補助対象者への換金の方法について検討中である。該当者の人数は今のところ把握していない。第73回大会事務局と打ち合わせのうえ、大会受付とは分けて、受付付近にブースを設置し、手続きに応じ

- ることになった。この手続きの担当は委員 会が行う(大会事務局はこの業務には関与 しない)。
- ・本大会での動向をみてから、来年度以降の 広報の方法について見直す予定である。
- 7) 学会賞•奨励賞選考委員会(荻野委員長)
 - ・8月3日に委員会を開催。審議事項で賞の設定について変更案を提出する。
- 2. 日本心理学諸学会連合(垣本担当常任理事)
 - ・新規の報告事項はとくになし。次回は10月 開催の予定である。
- 3. 2006 年度第73回大会について

(柏木大会委員長)

- ・2006 年 9 月 9 日・10 日開催予定の大会に ついて説明があった: テーマ「少子高齢化と 心理学」。
- エントリー件数は次のとおりである: 公開特別講演1件,一般発表(ポスター)90件,自主シンポジウム5件,ワークショップ5件,懇親会予約参加申込者58名,広告24件。
- ・常任理事会の配布資料中、《血液型性格論と 応用心理学》が「学会企画シンポジウム」と あったのを、正しくは「大会企画シンポジウム」であることが確認され、訂正した。
- ・8月23日にプログラム・論文集の事前発送 の予定。入稿の遅れが多く、また発表希望日 指定も重なったが、できるかぎり調整して応 えた。これらが作業の進行の遅れに若干影響 を与えた。
- ・理事会は東京ガーデンパレスホテル(須磨の間)にて、大会前日の8日17時~19時に行う。
- 4. 2007 年度第74回大会について

(蓮花大会委員長)

- ・2007年9月8日~9日開催予定の大会の内容について説明された。(理事会は前日7日夜)
- ・一般報告の形式は、ポスターだけでなく、口 頭も取り入れる予定である。

III. 審議事項

- 1. 学会賞・奨励賞に関する件
 - ・現行の学会賞ならびに奨励賞について,委員 会から変更案が提案された。

• 変更理由

- ①該当者なしが続いている(学会賞は2年連続で該当者なし、奨励賞は3年連続)
- ②推薦数自体も減少。本年度はついに推薦な しとなった。(学会賞・奨励賞の区別が難 しいことも、その一因と推測される)

• 変更案

「学会賞に1本化し、学会賞の中に研究(あるいは論文)部門と実践部門を設置する。設定の趣旨変更に伴い、規程も相応に変更する。候補の推薦人として、名誉会員は除き、理事のみとする。」

- ・上記の変更案は大筋で承認された。それに 伴って修正が必要なことについて審議され、 下記のことが決定され、理事会ならびに総会 で提案されることとなった。
- ①学会賞は隔年で選考・授与される。(隔年と3年とで投票がなされ,5対3で決定)。
- ②研究部門は,前年度末までに発行された本 学会機関誌『応用心理学研究』所載の2年 分の論文が選考対象となる。
- ③実践活動部門は、応用心理学の知見を生か した社会的実践活動をしている個人および 団体を対象とする。
- ④学会賞の選考委員会は、選考時期にあわせて組織される。なお、委員会名は、奨励賞の廃止をもって、「学会賞選考委員会」と変更される。
- ⑤したがって、④が承認されれば、現任の選 考委員会は解散となる。
- ⑥本年度は従来の学会賞・奨励賞を踏襲し、 該当者なしとする。総会での承認後、2008 年度に新しい学会賞の選考方式が適用され ることとなる。(機関誌の対象刊号は第31 巻2号~)
- 2. 2004 年度決算・2005 年度予算に関する件 (浮谷事務局長)
 - ・事務局より 2004 年度決算書および 2005 年 度予算案提案され、承認された。
- 3. 名簿作成に関する件(浮谷事務局長)
 - ・名簿の改訂にあたり、名簿に掲載する項目な どについて検討された。
 - 1) 冊子型名簿作成し会員への配布を行うこと

- 2) 2004年版に記載されていた最終学歴は掲載しない。掲載項目は、氏名以外に①自宅住所および電話番号、②所属機関名・職名(身分)および所在地・電話番号、③研究領域、④認定「応用心理士」資格、⑤e-mail アドレスとする。①はついては、本人に掲載可否を確認する。②がない場合には、①を掲載する。
- 4. 役員選挙・選出規程に関する件

(浮谷事務局長)

- ・若干の字句の修正がなされた案が事務局より 提案され、承認された。
- ・重要な変更は、第6条第2項の常任理事選挙の投票について、3名連記を15名連記とした点である。3名連記では当選得票数が少なすぎたためとの説明があり、これもあわせて了承された。
- 5. 新入会員審査および会員異動に関する件 (浮谷事務局長)
 - ・新入会員申し込みのあった者について審査した結果,以下の16名を承認した。 森 光彩,岩本彩子,近藤千尋,松井真樹,吉田有希,吉田美穂,飯田真理子,早川未紗,内本純子,吉岡節夫,清水光明,植木 是,七田 眞,瀧上凱令,笹木靖之,中谷内一也
 - ・6/14 現在,会員数 1,104名(内訳:正会員数 1,056名,学生会員2名,名誉会員42名,賛助会員4名)。入会者21名,退会者2名(うち,退会の1名はご逝去;鯉沼 勝氏)。

IV. その他

- 1. 藤田機関誌編集委員長から、編集規程の変更について提案がなされたが、引き続き検討していくこととなった。
- 2. 2008 年度 75 回大会当番機関の交渉は岡村 理事長に一任した。
- *次回常任理事会は2006年9月10日(日)12時から文京学院大学本郷キャンパスにおいて開催される。なお、理事会は2006年9月8日(金)午後5時より東京ガーデンパレスにおいて開催される。

会員異動

2005 年度新入会員

長野県警察本部 刑事部科学捜査研究所

青木 憲樹

桐生短期大学

井上 孝之

岩手県立大学 社会福祉学部

江川 知香子

大阪府東大阪市

閻 喜

信州大学人文学部

岡本 満喜子

プログレ法律特許事務所

小川内 哲生

玉木女子短期大学

小野寺 理江

日本学術振興会 · 名古屋大学

海蔵寺 陽子

松下電工カウンセリングルーム

柿本 敏克

群馬大学社会情報学部

片岡 杏子

台東区立寿児童館/京都造形芸術大学

岸 太一

東邦大学

北折 充隆

金城学院大学人間科学部

幸野 里寿

京都大学人間 • 環境学研究科共生人間学専攻

小嶋 新太

日本体育大学

近藤 俊明

東京福祉大学社会福祉学部

坂本 正裕

文京学院大学人間学部

佐藤 祐基

浅井学園大学大学院人間福祉研究科

地頭 沙織

文京学院大学大学院人間学研究科

下仲 順子

文京学院大学

髙橋 渓

慶應義塾大学文学部

滝澤 麗

慶應義塾大学大学院

多久島 寛孝

熊本保健科学大学保健科学部看護学科

田口 真二

熊本県警察本部 科学捜査研究所

田中 翔子

文京学院大学大学院人間学研究科

田辺 勝

日本体育大学

種ヶ嶋 尚志

聖徳大学臨床心理研究科

田原 理恵

文京学院大学大学院

長 多美子

桜美林大学大学院

中井 宏

大阪大学大学院

長沼 薫

北海道応用心理学教室

長野 祐一郎

文京学院大学人間学部心理学科

永久 ひさ子

文京学院大学

西田 公昭

静岡県立大学看護学部

西村 次由

北海道応用心理学教室

西村 英也

ナナワ整形外科

沼井 眞理子

水沢市立水沢小学校

荷見 一恵

茨城県立那珂湊第一高等学校

福島 久美子

医療法人社団三優会

プリブル チャールズ

大妻女子大学文学部コミュニケーション学科

松山 美保子

三重県鈴鹿市

森 昇子

文京学院大学大学院

安田 道子

福島学院大学

山本 洋祐

日本体育大学

山本 佳恵 筑豊病院

横井 幸久

爱知県警察本部 科学捜査研究所

龍 祐吉

中京女子大学人文学部児童学科

劉 莉

大阪経済大学大学院経営情報研究科

和田 一成

平安女学院大学短期大学部

2005 年度退会者名簿一覧

青木みのり、麻生美由姫、足立 明、井上 厚、 高見理恵子、武田 繁好、武田 真弓、浦畑 亘孝、纓坂 英子、尾形 悦子、岡村 美奈、 椿堂 由紀、出水真寿美、中尾 彩子、岡本 清美、片岡 理佳、川畑 実和、川辺 章司、 南篠 充寿、楡木 佳子、蓮見知恵子、郷 百合野、小島 久、下平光太郎、鈴木 綾子、 布施 晶子、古川ひとみ、本多 和子、関谷 健、辻谷 實、土合 千春、堤 年子、 マルコン オットー、 山崎 麻里、中嶋 真理、長山 泰久、西出有輝子、二挺木秀雄、 吉田 恒彦、若山 英央、渡部 桂子

野田 光子, 萩原 朋子, 松尾 典子, 松原 達哉, 宮内 英光, 村上 生美, 吉田 恵, 若松 直樹

逝去 (5 名)

磯部 治平, 鯉沼 勝, 西川 博文, 北村 晴朗, 田中 昌人

住所不明(38名)

秋元 幸見,雨宮 一洋,板垣 憲輝,大内 隆, 岡村 千鶴,鑑 さやか,片岡 健二,熊倉 朋子,小林 桂子,斉藤早香枝,佐伯 勝幸,佐久間直也,澤田 和美,薛 常慧,高田 智子,高橋 晃,高見理恵子,武田 繁好,武田 真弓,月野木竜也,椿堂 由紀,出水真寿美,中尾 彩子,中里 茂,南篠 充寿,楡木 佳子,蓮見知恵子,服部 隆志,布施 晶子,古川ひとみ,本多 和子,松坂まり子,マルコン オットー, 山崎 麻里,山本 都久,吉田 恒彦,若山 英央 渡部 桂子